

## 『ジャーってどれかな』 0歳児 7月



### エピソード

穴を開けたペットボトルの水遊び玩具を使って水遊びをしました。

ペットボトルを斜めに傾けながら、タライから水をすくって、しゃがんだ姿勢で穴から出てくる水を見ていました。水が出なくなるとペットボトルの中を覗いて中身が空になったことを確認していました。「水ないね」と保育者が声をかけると、再び水をすくっていました。何度か繰り返すうちに、今度は立ち上がった姿勢で穴から水が落ちる様子を見るようになりました。保育者が「ジャーってなったね」と声をかけると、水が落ちる様子をよく見ようとして、ペットボトルを持ち上げて見る高さを変えたり、傾けたりするようになりました。そのうちに体の向きまで変えて見るようになりました。床が濡れ始めると、床をじーと見て、床に溜まった水を掌を左右に動かして触っていました。

### 保育者の思い

タライの水は、自分の体温に近い温度であり、普段お風呂でも感じている温度が安心できると思い、35度から37度のぬるま湯にしています。体も冷えすぎずに水の感触を楽しむことができます。

タライの場でもシャワーのように水が出る面白さを感じてほしくて、玩具を準備しました。玩具に興味を持ってくれるかな、玩具をどのように使うかなと思いながら見守ることを大事にしました。高いところから水が流れ落ちる時は、音にも気付いてほしくて「ジャーってなったね」と言葉にしました。

### 子どもの育ちや学び

ペットボトルを斜めに傾けることで、中に水が入ることをこれまでの生活や遊びの経験から知り、穴から水が出てくる不思議さを感じたり、どうすれば流れ落ちる様子がよく見えるのかと自分なりに考えて高さや傾きを変えたりする行動が見られました。繰り返し遊ぶことや保育者の言葉で、水の見え方が変わったり、床に視線を移したりして新たな気付きも生まれました。

### 家庭だったら・・・

お風呂の中でゼリーなどのカップやペットボトルを使って、湯を入れたり出したりする遊びを繰り返し楽しめます。容器に開ける穴の数を変えると水の落ち方の違いに気付きが見られ、面白さを感じられるかもしれません。